

秋元 美晴

キーワード：形容詞 装定用法 述定用法 コロケーション 程度名詞

1. はじめに

形容詞の研究は名詞や動詞といった主要範疇の品詞に比べて、それほど多いとは言えない。本稿は、そのギャップを埋めるためのひとつの試みである。

形容詞の機能は、連体修飾、述語、連用修飾の3つに分けられるが、連用修飾は副詞的に使われるので、連体修飾となる機能(装定用法)と述語的機能(述定用法)の2つが形容詞の本来の機能であると考えられる。本稿では、この2つの機能を中心に形容詞のいくつかの特徴について述べることにする。具体的には、頻度の高い形容詞を取り上げ、コロケーションの立場から、その意味・用法を明らかにし、さらにそれらの形容詞と「名詞+接尾辞」からなる程度名詞とのコロケーション上の関係について論じる。

2. 研究方法

資料として『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)を用い、2005年に発行された1年分の雑誌に現れた形容詞839,952語の中から、秋元(1996)に基づき、そこに現れた頻度の高い形容詞10語(高い、多い、強い、難しい、若い、厳しい、大きい、安い、悪い、長い)を選び、それらの形容詞の装定用法と述定用法のデータを収集し、調査・考察した。なお、秋元(1996)は、1995年に発行された雑誌『アエラ』6冊分から手で集めた形容詞のデータである。

3. 先行研究

先駆的な形容詞の研究に西尾(1972)がある。ここでは、形容詞を大きく感情形容詞と属性形容詞に分け、豊富な例を集め、形容詞の意味・用法について分析している。なお、個別的記述として、7語の形容詞について分析している。例えば、その一つの「高い」についてみれば、本来の意味である「物の垂直上方への延長が大きい」で使われる場合は、どのような名詞と共起する(コロケートする)ことが多いのか、また、「高い」が単に程度が大きいことを表す性質が強い場合は、「～度」「～率」などの接尾辞が付く名詞と共起することを例として挙げて説明している。秋元(1996)では、先ほど述べた資料を基に頻度の高い形容詞を取り上げ、その装定用法と述定用法を調べ、なぜ一方の機能が他の機能より好まれるのかを文法的、談話的レベルで考察している。また、秋元(1999)では、程度を表す名詞、例えば、「可能性」「確率」などを程度名詞と呼び、程度名詞がその度合いに応じて、どのような形容詞と共起し、装定・述定のどちらを用いているかを明らかにしている。この問題に関しては、7節で再び取り上げる。仁田(1980)では、「多い」「少ない」の装定用法が、「多い+名詞」「少ない+名詞」のかたちであまり使用されず、「多くの+名詞」「少しの+名詞」という形で使われることが多いことを論じつつ、形容詞の装定用法について述べている。仁田(1998)では、文庫本から形容詞と動詞の装定用法と述定用法の数を調査し、その結果、動詞の中心は述定用法であるのに対して、形容詞の本領は名詞を修飾、限定する装定用法にあるとしている。なお、装定用法は属性形容詞が本来であり、ある意味では、感情・感覚形容詞は、動詞に近いとしている。八嶋(2008)は、形容詞を名詞と動詞の中間的な存在としてとらえ^(註1)、その上で、形容詞の文中での機能として、規定語、すなわち連体修飾語になる場合と述語になる場合、その他文の部分になる場合について論じている。また、規定語すなわち連体修飾語になる場合を、義務的な場合と義務的でない場合に分けている。一方、形容詞が述語となる場合は、「話し手が属性を評価的に差し出す」とし、資料としてはシナリオ、小説、週刊誌である『アエラ』の3種類を取り上げている。シナリオでは、述定用法が圧倒的に優勢であり、小説もやはり述定用法が多い。しかし、週刊誌(『アエラ』)の場合は、規定語、すなわち連体修飾語として機能する割合が高いとしている。

このことに関しては、結論の部分でコメントする。

4. コロケーションと装定用法・述定用法

コロケーションにはさまざまな定義があるが、本稿では Crystal (2008: 86) の “the habitual co-occurrence of individual lexical items” (コロケーションとは個々の語彙項目の習慣的な共起関係) と考える。

装定用法、述定用法については、仁田 (1998) にあるように「名詞を修飾・限定する用法」を装定用法、そして述語として働いている用法を述定用法と呼ぶ。

装定用法と述定用法の関係に関しては、かつて変形文法では、関係代名詞的述部から削除などの変形を経て、装定用法が派生するプロセスを考えていたが、Bolinger (1967) はそのプロセスを次の a, b などの例を挙げ、批判している。

- a. The chief reason b. A total stranger
*The reason is chief. *The stranger is total.

つまり、chief および total は、それぞれの predicative (述定用法) は不可である。また、デンマークの英語学者である Jespersen (1924:114-116) は、装定用法と述定用法について、前者を ‘junction’、後者を ‘nexus’ と呼び、装定用法である ‘a red rose’ (赤いバラ) は生命力のない表現であり、述定用法である ‘the rose is red’ (そのバラは赤い) は生命力のある表現であるとしている。前者は、固く、絵のようであり、後者は柔軟で生き生きとしており、プロセスあるいはドラマのようであると述べている。

なお、本稿では (1) の「夫の強い愛情」は装定用法とした。

- (1) …あたしんちは何年たっても夫の強い愛情を感じるという人がいる
かもしれないが…。 (PM52-00079)

これは「夫が強い」のではなく、「夫の強い」が一つの形容詞句を構成して「愛情」を修飾していることになるからである。一方、(2) は述定用法とした。

- (2) 大規模店舗化とともにファッション性の強い路線に力を入れている。
 (PM51-00741)

「ファッション性の強い」は「路線」を修飾しているが「ファッション性が強い」の意味だからである。

5. 装定用法と述定用法の比率

表 1 の「形容詞の装定用法と述定用法の比率」にあるように、10 語の形容詞の装定用法と述定用法は合計 1958 例あるが、そのうち装定用法は 575 例で全体の 29%、述定用法は 1383 例で 71% となる。

表 1 形容詞の装定用法と述定用法の比率

順位	形容詞	装定用法 (%)	述定用法 (%)	
1	多い	131 (21)*	506 (79)	637
2	高い	101 (26)	283 (74)	384
3	強い	71 (32)	150 (68)	221
4	大きい	13 (8)	145 (92)	158
5	悪い	37 (25)	111 (75)	148
6	難しい	17 (15)	99 (85)	116
7	長い	71 (70)	31 (30)	102
8	若い	83 (93)	6 (7)	89
9	厳しい	37 (59)	26 (41)	63
10	安い	12 (27)	33 (73)	45
		575 (29)	1383 (71)	1958

*131 例のうち「多い+名詞」は 26 例、「多くの+名詞」は 105 例。

全体的に見た場合、述定用法が装定用法の 2.4 倍となることがわかる。ただし、「長い」「若い」「厳しい」は装定用法のほうが多く、特に「若い」は 93% と圧倒的に装定用法が多くなっている。

6. 個々の形容詞の分析

次に、1 位の「多い」から、10 位の「安い」までの個々の例を見ていく。

6.1. 多い

「多い」は、次のように述定用法が 79% と多数を占めていることがわかる。

- (3) フロリダって湿気が多いから、中々乾かないのだ。コレが。

(PM51-01080)

- (4) 荷物が多くなりがちな女性にはとても便利。

(PM51-0057)

装定用法は 131 例あるが、このうち「多い+名詞」は 26 例で、(5) (6) のように「多い」の前に、「一番」や「近年」「最近」のような修飾語が付くことが

多い。これは「多い」だけでは漠然としているが、「一番」などを付けることにより「多い」の意味を限定するためだと考えられる。

(5) 一番多い原因は、水の与えすぎです。(PM51-00848)

(6) …場合などありますが、近年多いケースは地盤改良によるものです。(PM51-01514)

一方、105例の装定用法は(7)(8)などである。

(7) 対馬を旅していると、多くの神社に出会う。(PM51-00890)

(8) 長年にわたって多くの人々が取り組み、地道な改善を重ねて確立してきたものです。(PM51-00463)

6.2. 高い

「高い」は、(9)(10)のような述定用法が74%と多いが、(10)の「確率」は程度名詞である。

(9) ただ、そういうモノは決まって値段が高い。(PM55-00158)

(10) 団体さんにぶつかる確率が高いので、みなさん、くれぐれも予約はお忘れなく。(PM51-0097)

装定用法も26%とあるが、(11)の「高い塀」は、「高い」の基本的な意味で使われている。(12)の「高い評価」はかなり多く現れる。

(11) …堀を設け周りを高い塀で囲むという半分城のような造りであった。(PM55-00158)

(12) 毎年高い評価を受けながらも昨季はリーグ最低のチーム防御率に陥った。(PM51-0097)

6.3. 強い

「強い」は、(13)(14)のような装定用法が32%と約3分の1を占める。

(13) 韓国の対米態度によほど強い憤りを覚えている例証だろう(PM51-064)

(14) 松林の間にあるモーテルは、強い風と波の音とに囲まれていた。(PM51-00697)

述定用法である(15)の「平等感の強い」は、「名詞+接尾辞「感」」から

なる程度名詞だが、これらの「感」が付いた程度名詞と「強い」の例はしばしば見られる。7節の議論も参照。

(15) 僕は日本人ほど平等感の強い民族はないんじゃないかと思うんです。(PM51-00430)

(16) マルクス主義のインド共産党が強い西ベンガル州でも…。(PM53-00040)

6.4. 大きい

「大きい」は、述定用法が92%と最も高い。(17)(18)の例のうち、(18)の「比率」は程度名詞である。

(17) 栗山医師の挑戦の意味は大きい。(PM51-00646)

(18) パイソンCCの比率が最も大きくなるこのサイズには、視線を集中させる力あり。(PM51-00101)

8%の装定用法は、(19)(20)の「大きい手」や「大きいもの」のように、もっとも典型的な意味で使われている。

(19) 反対に大きい手の人は慎重で石橋を叩いて渡るタイプ。(PM51-00157)

(20) 掘り出される根の部分は、大きいもので太さ5cm、長さ30cmにもなります。(PM51-00303)

6.5. 悪い

「悪い」は、述定用法は75%で、装定用法は25%である。

(21) …ホテルのインターネット環境はかなり悪い、結局写真はアナログ回線のメールで送るしかない。(PM51-01080)

(22) 琴光喜立ち合いは悪くなかったので、右が入りかけたんだけどね。(PM51-00938)

述定用法で使われる場合は「よくない」という基本義で使われているが、次の装定用法でも同じ意味で使われており、使われる意味の違いはほとんどない。

(23) …眠るたびに思い出を失う眠り姫。姫は悪い魔法使いから王子の手に渡った。(PM51-00191)

- (24) …初中級には非常に多く見られる悪い例だ。(PM51-00142)

6.6. 難しい

「難しい」は、述定用法が85%と「大きい」に次いで、述定用法の使用が多くなっている。主語になる名詞には、「実践は難しい」のような名詞が来る場合もあるが、(25)の「ピントの合わせ方」や「産物の数量を制限することは難しくなっています」、(26)「言葉にするの(こと)」のような形式名詞をともなって主語になる例がかなりみられるが^(注2)、これが特徴として挙げられる。

- (25) 最初はピントの合わせ方が難しいと感じる人もいますが、慣れれば早くできるようになります。(PM56-00021)
- (26) ただ言葉にするのは難しいですね。(PM56-00602)

6.7. 長い

「長い」は「若い」「厳しい」とともに、装定用法のほうが多い形容詞である。

- (27) 長い靴下にはハイヒールがGOOD! (PM51-00060)
- (27) のように基本的な意味で使われる例がある一方、装定用法は、(28)(29)の例からもわかるように「時間」や「眠り」のように、ある程度の持続性を内包している名詞と共起する例が目立つ。
- (28) これから長い時間を過ごす自宅をリフォームすることにした。(PM51-00153)
- (29) 中世の城塞は、今ようやく長い眠りから覚めたのだ。(PM52-00002)

このことは次の2例の述定用法についても言える。

- (30) その注目も長くは続かず、シーズンは長かった。(PM51-00490)
- (31) その点、俳人の賞味期限は長いといえようが、それはそれ。(PM52-00008)

6.8. 若い

「若い」は、装定用法が93%であり、10語の中でもっとも装定用法が多い形容詞である。

- (32) こうした一連の動きは、若い世代の関心を掘り起こした。(PM51-00783)
- (33) たまには、こんな夜食も若い方には喜ばれます。(PM51-00929)
- (34) …って、ぼくはこの人たちよりちょっと若いですね。(PM51-01352)
- (35) …久しぶりに会ったとき、「あなた若いわね」というより、「少しも変わらないわね」…(PM51-00812)
- 4例をみればわかるように、共起する名詞は、装定用法も述定用法も変わらず、「若い」の基本義である「ある物がこの世に生じてからの時間や年月が短い」という意味で使われている。

6.9. 厳しい

「厳しい」は、装定用法が59%で、述定用法が41%と用法上、差があまり見られない形容詞である。「厳しい」も「若い」と同じように、装定用法で使われても、述定用法で使われても、意味はほとんど変わらない。

- (36) ドイツの厳しい審査をクリアし、環境問題や健康に配慮したアイテム。(PM51-00880)
- (37) 「やればできると思う。まあ、厳しい争いになるとは思うんですけど、そのなかで勝負強さと…」(PM51-00602)
- (38) しかし、現実は厳しい。(PM51-00169)
- (39) 訓練は厳しく「おトイレ」の時間まで決められているという。(PM51-00963)

興味深いことは、装定・述定ともに2語からなる漢語との共起関係が多いことである。他の例としては、「厳しい条件」「厳しい結果」「指導は厳しかった」「内実は厳しくて」などがある。

6.10. 安い

10位の「安い」は、例が45例とあまり多くないが、(40)(41)のように述定用法のほうが多いため形容詞である。

- (40) …も初めて来たが、とにかく一品一品が安い。(PM51-00491)

(41) …やはり価格が安く、大容量のコンパクトフラッシュが使えるのはうれしい。(PM55-00165)

「価格」や「値段」「料金」と共起することが多く、(42)(43)の装定用法でも述定用法と同じような種類の名詞が使われている。

(42) …また、異常に安い農産物が入ってくるために途上国の農業が破壊されること…(PM54-009011)

(43) …学校帰りによく入った、安くてまずいラーメン屋。(PM52-00011)

以上、10語の形容詞を見てきたが、このうち「若い」と「長い」は、名詞の属性を述べるための装定用法としての使用例が顕著である。これは、仁田(1980)がすでに述べているように、装定用法は修飾される名詞が持っている属性の一部を引き出し、その属性を強調することにあるためである。例えば、「若い」という形容詞は、6.8で見たように、共起する名詞は、「世代」「方」や人称代名詞「ぼく」「あなた」である。これは、「世代」「方」などの名詞や「ぼく」「あなた」などの人称代名詞そのものに、「若い」という特性が入っているためだと考えられる。それを引き出した形で、装定用法として、あるいは述定用法としても使われることがある。「若い」の装定用法の使い方である「若い世代」「若い人」などは、たぶん複合名詞的であり、このことが装定用法の使用頻度を上げていると思われる。

7. 程度名詞とコロケーション

ここまでは形容詞を中心に見てきたが、ここからは程度名詞とコロケーションの問題について考えていく。まず、程度名詞についてだが、3節でも述べたように、本稿では程度や度合・尺度を表す名詞に「速さ」「強度」「重量」「面積」「可能性」「競争力」「失業率」などの名詞の一群があるが、これらの名詞を程度名詞と呼ぶ。

なお、今回は、(44)～(47)のように「～性」「～度」「～率」「～力」などの<名詞+接尾辞>からなる程度名詞に限って調査した。これらの程度名詞を分析対象としたのは、これらの程度名詞の頻度が高かったからである。この調査を通して、程度名詞と形容詞のコロケーションにおいて、どの程度関連があ

るかを明らかにしていく。

(44) その高いモード性だけが理由ではありません。(PM51-00753)

(45) 花はやや赤色で鑑賞性も高い。(PM51-00212)

(46) 正義感が強く、まっすぐにタフな天使なので…(PM51-01328)

(47) どうしても回答率が悪くなったり、いい加減な回答になってしまったりすることはある。(PM51-00290)

装定用法の例として「高いモード性」を1例あげ、述定用法の例としては「鑑賞性も高い」「正義感が強い」「回答率が悪い」の3例あげたが、それは表1を見ればわかるように、「長い」「若い」「厳しい」を除いて、残りの7つの形容詞は圧倒的に述定用法が多いからである。もちろん、表1の述定用法の例には程度名詞以外の名詞も含まれている。

表2は、程度名詞と表1であげた形容詞との結合頻度を示したものである。

表2 程度名詞における装定用法と述定用法

形容詞	装定用法	述定用法	
高い	14	71	85
強い	0	15	15
多い	0	11	11
悪い	0	8	8
大きい	0	4	4
難しい	0	0	0
長い	0	0	0
若い	0	0	0
厳しい	0	0	0
安い	0	0	0
	14	109	123

以下、例をあげる。

(48) 世界ランク1位になる可能性が高い。(PM51-00511)

(49) 攻撃対象になることが少なく安全性が高い。(PM55-00099)

(50) のびよりも浸透力が高い。(PM51-00059)

(51) ターミナル駅でカップ酒との遭遇率が高い。(PM51-01315)

(52) 使い回しがきくし、洗練感も高いのは…。(PM51-00199)

- (53) 先入観(笑)を裏切ってみせる高い音楽性が… (PM51-00418)
- (54) 高い保湿力や感触のよさ… (PM51-00410)
- (55) …に比べて相対的に長ければ男性性は強いかもしれませんが… (PM51-00157)
- (56) …繁殖力が強いにもかかわらず… (PM51-01264)
- (57) …ジョンコは警戒心が強いところがありますが… (PM51-00688)
- (58) 収量が多いので、ジャムなどの加工用に適する暑さ… (PM51-00212)
- (59) 五感のなかでももっとも情報量が多いのは視覚です。 (PM52-00081)
- (60) …投資効率が悪いと判断されたら… (PM51-00204)
- (61) わずかになったときのドキドキ感もわるくないと思う。 (PM51-00034)
- (62) 明暗差が大きい部屋は、目に負担がかかる。 (PM51-00153)
- (63) 撮った写真1枚のデータ量が大きく、本体も携帯性を重視していないので… (PM55-00165)
- (64) それよりも、多様なショットを打ちやすい操作性を重視します。このドライバーは、そうした操作性の高いクラブといえます。 (PM55-00209)

表3は、最も頻繁に接尾辞付き程度名詞と現れる「高い」について、その接尾辞の種類を示したものである。

表3 「高い」と共起する接尾辞と述定用法及び装定用法の頻度

接尾辞	述定用法	装定用法	
～性(可能性、安全性など)	28	10	38
～度(完成度、自由度など)	23	0	23
～率(成長率、支持率など)	15	1	16
～力(競争力、反発力など)	4	2	6
～感(洗練感、剛性感など)	1	1	2
	71	14	85

これら上記の接尾辞の中で、「～性」が最も多く、その中で「可能性」が12

例と最も多く使われており、装定用法も多いのが特徴である。なお、秋元(1999)によれば、「可能性」は「高い」以外にも「大きい」「強い」とも共起し、その際、確信度の度合いは「大きい」「高い」「強い」の順で大きくなるとしている。

次いで多いのが「～度」であるが、これには形容詞の装定用法はない。「～率」も頻度が高い。これらのことから、「高い」は「～性」「～度」「～率」の接尾辞を持つ程度名詞と最も多く共起すると言える。

表2を見れば分かるように、「高い」「強い」「多い」「悪い」「大きい」の順に程度名詞と共起する。

「強い」は、「～感」と共起することが多く、7例あった。次いで「～性」は3例あり、「多い」は「～量」の接尾辞と共起する例が10例とほとんどであるが、これは量の多さという文字通りの意味を表わすためであろう。

「悪い」は特に傾向はなく、「～率」「～性」「～度」などと共起する。「大きい」も特にはっきりした傾向はないが、「多い」と同様「～量」などを表わす意の程度名詞と共起することが多い。

本稿の調査は、服部(2011)の1947年以降60年間の国会会議録のデータに基づく通時的研究において述べられている「高い」が主として用いられる方向へ動いている旨と一致する。しかし、服部(2011)は形容詞を装定用法と述定用法に分けて論じていない。これまで述べてきたように、程度名詞(接尾辞付きを含めて)の述定用法が圧倒的に多く使われていることを鑑みれば、装定用法と述定用法に分けて考察することが重要であろう。述定用法が特に接尾辞付き程度名詞に多い一つの理由として、程度名詞は意味において抽象的なので、直接修飾しにくい点があげられよう。その点、述定用法は説明的であり、(64)の「そうした操作性」のように談話内では指示詞などにより前方照応的に述べられることが多く、その内容は抽象的であっても前後の文脈から判断・推察されるものである。実際、程度名詞の機能は文脈に依存することが多い。この事実は程度名詞は「若い」や「長い」などの属性を表わす形容詞とは共起しづらいことをも説明する。すなわち、属性形容詞は名詞の特性の一部を引き出す働きがあるが、程度名詞はそのような特性は少なく、従って、それらの形容詞とは共起しないことになる。

程度名詞と共起する形容詞と、共起しない形容詞の差は、これからもう少し

調べる必要がある。今、言えることは、形容詞の基本義は原則的には具象名詞と共に使用されるが、それがメタファー的に用いられることにより、抽象概念にも用いられるようになり、それらの形容詞は抽象概念を表す程度名詞の度合いを示す場合にも用いられるようになると考えられるのではないかということである。そして、その時、それらの抽象的概念の意味の形容詞は、形容詞本来の属性の意味よりも程度を表す意味のほうがより顕著になると考えられるのではないだろうか。

具体的な例として、装定用法の「高い+程度名詞」と述定用法の「程度名詞+高い」を見ると、表1、表2を見ればわかるように、「高い」は装定用法が101例、述定用法は283例であり、このうち程度名詞が使われているのは、装定用法では14例で13%になるが、述定用法は283例のうち71例で25%となる。このように「高い」は程度名詞と共起する比率が最も高い形容詞である。

因みに「強い」の場合は、表2にあるように装定用法はなく述定用法だけだが、その述定用法も15例で150例(表1参照)の10%にしかない。また、「悪い」は、111例(表1参照)のうち8例しかなく7%にすぎない。同様に「大きい」「多い」は2%である。このように「高い」が程度名詞と共起する比率が高いことがわかる。

8. 結論

調査の結果、明らかになったことは、次の3点である。

- (1) 雑誌においては、形容詞の本来の機能は修飾(装定)であると言われているにもかかわらず、実際のデータをみると、形容詞によって差異はあるが、述語となる機能(述定)が多い。なお、この結果は、八亀(2008)とは異なる。八亀は週刊誌(『アエラ』)の場合は、シナリオや小説に述定用法が多いのに反して、規定語、すなわち連体修飾語として機能する割合が高いとしているが、これが本調査と違いが生じる理由は、八亀の調査には、いわゆる形容動詞も含まれているからであろうか。
- (2) 属性を述べる形容詞「若い」や「長い」は装定用法が多い。
- (3) 程度名詞(名詞+接尾辞)のコロケーションに関しては、次の4点が明らかになった。

- a. 「多い」「高い」「強い」は、本来の意味から比喩的、抽象的な意味に変わって使われている。「強い」を例に挙げれば、これは述定用法しか例がないが、(15)の「平等感の強い民族」や(55)「男性性が強い」は、「強い」の本来の意味である「力が優れている」という意味から、程度の度合いが大きくなる意味に変わっている。
- 一方、「大きい」は、ここで議論した<名詞+接尾辞>の程度名詞とはほとんど共起しないが、(63)「データ量が大きい」などという例があった。
- b. 抽象的な意味で使われる形容詞は、程度名詞のような一種の抽象名詞とは共起しやすいわけだが、例えば、「重い責任感」、「認知度が低い」、「防御力が弱い」のように「重い」「低い」「弱い」なども抽象名詞と共起する形容詞の例として挙げられる。
- c. その際、述定用法で使われることが多くなるのは、話者の判断がそこに投影されるからであり、その点で主観的だと考えられる(cf. Jespersenの議論も参照)。程度名詞を含めた抽象名詞の場合は、属性を引き出しづらいため、その分装定用法は使いにくいことになり、述定用法が使われることが多くなる。少し大胆な言い方をすれば、述定用法は、動詞が述語となる形が最も普通だが、動詞の多くは動作・運動を示すことが多く、状態を示すことはあまりない。そこで、そのギャップを埋めるために、形容詞の述定用法が存在するようになったと考えられるのではないだろうか。そして、述部の内容である動作・運動、状態を、動詞と形容詞の2つでもって棲み分けつつ、述定用法をより完全ものにしていくといえるのではないだろうか。
- d. 程度名詞は、「名詞+接尾辞」のものも多く、その接尾辞(〜力、〜率など)は、それが付く程度名詞と形容詞の間には関連性があると考えられる。例えば、「情報量」「使用量」の「量」は「多い」と、「必要性」「ファッション性」の「性」、「注目度」の「度」、「成長率」の「率」は、「高い」と共起する^(註3)。「高い」はこれらの程度名詞と共起するが、これは「高い」が具体から抽象へ移行しやすい形容詞であるためだと考えられる。

今回は、雑誌に限って調査したが、それ以外のジャンルである小説、手紙、ドラマなど、また、話し言葉と書き言葉の違いなども考える必要があると思われる。また、談話や情報構造の面からも形容詞の装定用法、述定用法を考える必要がある。談話中における情報量の多い、少ないが、形容詞の選択に影響を及ぼすと考えられるからである。今回は、現代の日本語に限って調査、検討したが、歴史的にみることも十分に意義のあることだと考えられる。例えば、「悩ましい」などは、昔と今では、形容詞の意味の違いが想定されるが、このことは、コロケーションにも反映されるに違いない。

*本稿は、2014年3月22日に開催された「対照言語行動学研究会—北京日本学研究センター共同シンポジウム2014」において口頭発表したものに加筆・修正したものである。

注

- 1) 類型言語学的に見た場合、形容詞というカテゴリーは動詞または名詞から派生しており、そのカテゴリーを疑問視する言語学者も多い。(cf. Givón 1970)
- 2) 中島 (2013) は、「朝早く散歩するのは気持ちがいい」といった連体修飾構造をもつ文の中に現われる「の」を形式名詞と呼んでいる。
- 3) 英語でも「成長率」(a growth rate) には 'high' が使われる。ただし、程度名詞により形容詞が異なることがある。Bolinger (1975:103) は、次のような例をあげている。
good likelihood strong likelihood * high likelihood (見込み)
* good probability strong probability high probability (公算)
good possibility strong possibility * high possibility (可能性)
なお、'probability' が最も確実性が強い。

【参考文献】

- 秋元美晴 (1985) 「「程度名詞」設定に関する試論」『甲子論集 林巨樹先生華甲記念国語論文論集』武蔵野書院
- (1996) 「形容詞の装定用法と述定用法」『林巨樹先生古稀記念甲戌論集』武蔵野書院
- (1999) 「程度名詞と形容詞の連語性」『日本語教育』102号 日本語教育学会
- 中島孝幸 (2013) 「連体修飾構造中の形式的な「の」「こと」について」『形式語研究論集』和泉書院

- 西尾寅弥 (1972) 『形容詞の意味・用法の記述的研究』秀英出版
- 仁田義雄 (1980) 『語彙論的統語論』明治書院
- (1998) 「日本語文法における形容詞」『言語』vol.27 No.3 大修館書店
- 八亀裕美 (2008) 『日本語形容詞の記述的研究—類型論的視点から—』明治書院
- 服部匡 (2011) 「程度の側面を持つ名詞とそれを量る形容詞類との共起関係—通時的研究—」『言語研究』140号
- Bolinger, Dwight (1967) Adjectives in English: attribution and predication. *Lingua* 18.1-34
- (1975) *Aspects of Language*. Second Edition. New York/Chicago/San Francisco/Atlanta: Harcourt Brace Jovanovich, INC.
- Crystal, David (2008) *A Dictionary of Linguistics and Phonetics*. Sixth Edition. Oxford: Blackwell.
- Givón, Talmy (1970) Notes on the semantic structure of English adjectives. *Language* 46.816-837
- Jespersen, Otto. (1924) *The Philosophy of Grammar*. London: George Allen & Unwin LTD.